

湯殿山信仰、異形の神仏



2013.3.26(火) — 4.14(日)

あゆむ
白鷹町文化交流センター AYU:M

休館日 / 月曜日

開館時間 / 9:00 ~ 19:00 (3月は17:00まで)

観覧料 / 一般個人 200円 高校生以下無料

主催・お問合せ / 白鷹町文化交流センター

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331番地 TEL. 0238-85-9071

協力 / 塩田行屋、東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター



塩田行屋本堂の御沢仏

まるで聞いたことのない仏像の名前…。

なんなんだ、この仏像群は!?

平成23年に好評を博しました白鷹町の仏像展①「塩田行屋の仏たち」展では、町指定文化財を中心に展示いたしました。今回は、前回展示会の時には一部のみのお出展にとどめた「御沢仏」という貴重な群像を展示いたします。

白鷹町十王塩田に位置する塩田行屋は、南陽市小滝出身の湯殿山修験者・明寿海により明治初めに開基され、遠くは新潟県長岡市・三条市付近まで広く信仰を集めました。

今回出展する御沢仏は塩田行屋の本堂の中心に置かれ、湯殿山信仰（出羽三山信仰）において重要な意味を持つことがわかります。御沢仏とは、湯殿山参詣の中で奥の院へ沢登り（御沢駆け）する際に見ることができる特徴的な岩や洞窟などを信仰対象としたもので、それを彫刻化した群像も指します。これらは全体として湯殿山自体を表すと考えられていたようです。塩田行屋はこのような性格を持つ御沢仏を安置することによって、湯殿山までは行くことができない人々の信仰と参拝を集めていたのでしょう。

また、この御沢仏の制作は明治12年に新海宗慶（1846-1899）によってなされたものですが、群像のうちの2体については、その息子で後に近代彫刻の大家となる新海竹太郎（1868-1927）が少年期に制作したものである可能性が高いことが、最近の研究で指摘されています。

本展では、信仰においても制作者においても重要な意味を持ちながら、今までその存在が知られていなかった塩田行屋の御沢仏を余すことなくご紹介いたします。

関連イベント 料金無料 ただし、当日の観覧券が必要（予約不要）

▶ **学芸員による展示解説**
3月31日(日)、4月7日(日)、4月14日(日)
いずれも14:00~14:30

▶ **講演会**
「塩田行屋の御沢仏と新海竹太郎について」
4月6日(土)14:00~15:30
講師：宮本晶朗（当館学芸員）



白鷹町文化交流センターAYu:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331番地
 ■お車でお越しの場合／山形市より国道348号線で約35分
 ■電車でお越しの場合／赤湯駅より山形鉄道フラワー長井線（荒砥行き）で「四季の郷駅」下車（赤湯駅から約50分）徒歩約4分

<http://www.ayu-m.jp/>